

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	静岡における社会的課題に応える政策研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	藤本 健太郎
	研究協力者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	東野 定律
		所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	岸 昭雄
		所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	内海 佐和子
	発 表 者	所属・職名	経営情報学部・教授	氏名	藤本 健太郎

講演題目
就職氷河期世代の支援について
研究の目的、成果及び今後の展望
研究の目的 いわゆる就職氷河期世代はバブル経済崩壊後の厳しい雇用環境下で就職活動を行うことを余儀なくされ、非正規雇用の職に就くなど、経済的に厳しい状態に置かれてきた。 このため、令和7年4月には「就職氷河期世代等に関する関係閣僚会議」が設置されるなど、近年、政策課題として大きく浮上している。 この問題について、就職氷河期世代のおかれている経済・社会状況に関するデータを分析し、高齢期の所得保障、住宅の確保、社会的孤立の課題などについて、望まれる政策対応を検討する。 研究の成果 近年、賃金はようやく上昇傾向にあるが、就職氷河期世代の賃金上昇は他の世代に比べると相対的に小さいことを内閣官房のデータなどによって確認した。また人口統計から就職氷河期世代では非婚化、少子化が進んだことを確認した。 そのことから、以下の政策課題について分析を行った。 ①高齢期の所得保障 厚生年金の保険料及び給付額は所得比例であることから、現役時代の賃金額は老齢厚生年金の金額に影響する。また、従来は非正規雇用の多くは、一般に厚生年金よりも給付額の小さい国民年金が適用されていた。さらに年金給付は世帯ベースで設計されているが、非婚化が進むと一人分の年金しか受給しない。 これらのことから、就職氷河期世代の老後の所得保障には課題があり、生活保護に頼らざるを得ない高齢者が増加することが懸念され、対策が必要であることが分かった。 ②高齢期の社会的孤立 高齢者の中でも単身高齢男性は社会的孤立リスクが高いことから、非婚化の進行した就職氷河期世代の高齢期の社会的孤立が懸念されること、また孤独死のリスクのある単身高齢者は住宅を借りられないケースも多いことから、住宅の確保が課題となることが分かった。 今後の展望 就職氷河期世代が安心して高齢期を迎えるためには、雇用政策のみならず年金政策や住宅政策における支援も必要であることから、総合的な政策パッケージの必要性について、研究を深めていきたい。